

## 会議開催記録

会議名	第1回 森町学校のあり方検討会
日時	平成29年6月23日(金) 13:30~15:40
場所	森町文化会館 小ホール
出席者	教育委員長 検討会委員22名、事務局10名
議事	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委嘱状伝達(教育委員長)</li> <li>3 あいさつ(教育長)</li> <li>4 自己紹介</li> <li>5 会長及び副会長の選任</li> <li>6 議事事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)「森町学校のあり方検討会」設置の経緯</li> <li>(2) 設置条例について</li> <li>(3)「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」(文部科学省)について</li> <li>(4) 森町の幼稚園・小中学校児童生徒数の現況と将来推計等について</li> <li>(5) 幼稚園・学校施設の状況</li> <li>(6) 意見集約について</li> <li>(7) その他</li> </ol> </li> <li>7 諮問</li> <li>8 閉会</li> </ol>
議事要旨	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会 学校教育課課長補佐</li> <li>2 委嘱状伝達(教育委員長) 教育委員長:</li> <li>3 あいさつ(教育長)</li> </ol> <p>教育長: この検討会は今年度森町教育委員会が最も重要視する事業。特に小規模校のあり方等については、数年前から森町議会等において取り上げられて議員のみなさんも非常に関心を持たれている。教育委員会としても定例教育委員会において常に話題として取り上げており、森町で学ぶ子供たちにとってどんな教育環境で学ぶのが一番人として成長に繋がるのかを常に議論していただいている。そのような傾向を踏まえて28年度12月に開催された総合教育会議にて、町長と教育委員会の意見交換の場で生徒の安全確保と設備の長寿命化について、幼稚園のあり方、スポーツの振興など様々な議論をした。教育委員会として、昨年6月に開催された新町長との総合教育の場にて、様々な資料を提示しながら今後の森町の学校のあり方について意見交換を行いその中で時間をかけて協議調整をしてきた。その中で本日の学校のあり方検討会の立ち上げについて双方の合意を得た。小規模校の園・学校だけの問題ではなく、生徒児童の数の減少、学校施設の老朽化、日常の教育活動への様々な影響、地域・保護者の声とか想い、子供の時代しかできない体験、こういったところをキーワードに森町の学校全体のあり方について検討を行うところに方向性を見出した。この方向性については8月から9月にかけて各地区で行われた町長と語る会においても類似した話をした。その席では小規模校の点だけの問題ではなく、小規模学校がある地区の線だけの問題でなく、森町という面全体を考えた検討会にしていく、という話をしてご理解を得ていくつもりである。今後の計画等については後程事務局から提案があるが、森町で学ぶ子供たちにとってどんな教育環境で学</p>

ぶことが一番大切なのか、意義があるのか、その一点の思いをそろえて充実した会になることをお願いしたい。

#### 4 自己紹介

名簿順に各委員の自己紹介

#### 5 会長及び副会長の選任

会長（武井）、副会長（長田）

会 長： ここ数年、学校配置のあり方の話がいろいろなところから出ている。磐田・掛川・島田・焼津・静岡など県内だけでも各地で始まっている。どこも学校配置に関しては一筋縄ではいかない問題である。一方で子供にとっての適正規模である教育の問題があり、ある程度の規模があった方が平均的にはいいだろうという考え方が多い一方で、地域からすると学校は大切であり、地域の中心であるという考え方がある。その中で最大限の良い見通しを持った結論に導く必要がある。森町についても同じようにこれからを検討する必要がある。現時点で結論を持っているわけではなく、みなさんと議論していく中で考えていきたい。考える際に2つのことを考えていただきたい。1点目は森町全体のことを考えていただきたい。お互いの地域が取り合うのではなく、森町全体を考えて互いに良い方向になるように考えていくようにしていただきたい。他の地域では無理やり統廃合を進めたことで地域が学校から離れてしまい、子供が愛着を持たなくなってしまうケースがある。そのようなことは森町にとっても良いことではない。みなさんで知恵を出し合って、森町にとって一番良い結論を考えていきたい。もう1点は現在や過去のことよりも未来のことに中心に考えていただきたい。学校という施設は古くから地域に根付いている。その伝統や積み上げたものを大切にしなければならない。しかし長期的に見たときに学校の校舎は鉄筋コンクリートならば60年が一般的である。長寿命化して70年、80年使いましょうという流れがある。財政が緊迫している時代に新しい公共施設を作るということは、そのぐらいの期間使われる前提でなければ長期的な話はできない。現時点50年後の社会がどうなっているかわからないが、少なくとも30年は森町にとっては長期的な見通しをもった考えをするべき。客観的な状況を見ていくと、国の財政も子供を見ても先延ばしにすればするほど状況はより厳しくなる。今の段階で長期的にこれならいけるという落としどころを見つけて、学校の配置を考えていく。現時点の状況よりも長期的な見通しの上にならば未来を中心に考える、未来の子供たちにとって一番いい環境を残していく。この2点を中心に検討しながら考えていきたい。

#### 6 議事事項

##### (1) 「森町学校のあり方検討会」設置の経緯

事務局説明（学校教育課長）

##### (2) 設置条例について

事務局説明（学校教育課長）

##### (3) 「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」

（文部科学省）について

事務局説明（教育長）

##### (4) 森町の幼稚園・小中学校児童生徒数の現況と将来推計等について

事務局説明（学校教育課長、庶務係長）

##### (5) 幼稚園・学校施設の状況

事務局説明（学校教育課長補佐）

会 長： おそらくこれからの学校のあり方を考えていくなかで無視できない話である。学校施設の老朽化というのは急増期にできた学校が今40～50年経過して改築の時期に近づいている。学校1校全ての改築に必要な経費は15億円ぐらいだと言われている。学校の耐用年数は学校のあり方と切っても切れない問題にある。例えば学校6年間で100人の生徒がいたとしたら1人あたりのコストが1500万となる。今の財政

難の状況で考えるととても現実的な数字ではない。しかし、現状を維持することを考えると全ての学校の老朽化に対して改修が追い付かない。老朽化が著しくなると耐震等は行うにしても、周辺市町に対して森町の学校だけが古くなる。そういう状況になってしまうと子供が森町に入ってきた際に、定住等の他の問題にも影響してしまう。財政の問題だけで考えてはいけませんが、財政の問題もしっかりと考えなければならない。

(6) 意見集約について

事務局説明（学校教育課長）

(7) その他

(質疑)

会 長： それでは、ご意見等があればお願いしたい。

委 員： 先ほど各学校（旭が丘中学校区、森中学校区、泉陽中学校区）の意見集約の話が  
でたが、保護者からどのように意見を集約していくのか、計画があるか。

事 務 局： 保護者からの意見集約については、資料7の「森町学校のあり方検討会」開催内  
容について平成29年11月頃を予定している第4回目の会議の際に、各学校にて話  
し合いをした内容を取りまとめていただき、それを事務局の方で集約する。

委 員： 意見集約の方法については各学校に任せるということか。

会 長： この検討会でどのような方法で意見集約を行うかも含めて考えていきたい。関心  
がなければ意見を出しにくいし、関心がある人のみの意見を集めると発言力の強い  
ものだけになってしまう。方法についてはアンケートを取る方法や直接地域の方に  
話を聞く方法もある。それらを組み合わせて行う方法もあるので、方法については  
これから考えていく必要がある。基本であるのは地元の声をちゃんと聴くというこ  
とと、バランスよく議論を行っていくことをこの場で確認して、次回以降どのよう  
に意見を聞いていくかを検討していく。

委 員： 「学校のあり方検討会」については公開を原則とすると事務局から話があったが、  
公開を周知する方法はどうするか。検討枠や肯定案について意見を言う時に、公開  
していることが圧力になる可能性がある。

事 務 局： 原則公開で進めていきたい。議会の方からも関心があり傍聴したいとの意見もあ  
るため傍聴は自由として進めたい。その際に地域の方など発言が傍聴人によって左  
右されるということはあるとはならない。委員は地域や学校の代表として出席して  
いるわけではないので、個人個人の意見をお願いしたい。個人に批判等がないよう  
に気を付ける。

会 長： 基本的に公開にしていくべきである。公開にした結果、集まった人が意見を出し  
にくくなるのは本末転倒である。意見を出す個人に被害が及ばないように注意をし  
ていく。会議の内容等の発信についても積極的に進めていくと同時にみなさんが自由  
に意見を言える場として進めていく。

委 員： 三倉幼稚園のことだが、該当幼児がいるが天方幼稚園に通園しているのは、保護  
者の都合なのかその他の都合なのか。

事 務 局： 三倉幼稚園については長い間6人の園児という体制でやってきた。保護者の方で  
働き始めたいという方があったり、少しでも多くの児童と触れあった方がいろい  
ろと学ぶこともあるので、他の園に行くことができるかとの相談もあったりした。幼  
稚園は学校のように通学区域がないので、自由に通園先を選ぶことができるという  
ことを保護者に伝えたところ、27年度に向けて園児数が3人まで減ってしまい、少  
人数では教育にも心配があるとの話が保護者からもあり対応について話し合いをし  
た。保護者からは三倉幼稚園を卒園させたいとの声もあり、既に27年度が間近に迫  
っていたこともあり、園児3人でも27年度は交流保育を多く実施しながら開設して  
いくこととした。しかし、園児3人では交流保育をやったとしても、やはり少な  
すぎるといふことで、お2人は天方幼稚園に通いたいということになり、結果として

27年度は園児1人になってしまった。28年度に向けては、早めに三倉幼稚園への通園について該当保護者に確認したところ、希望者が1人だったので、三倉幼稚園は休園とした。単学年に3人以上集まった場合には再開するかとの意見もいただいたが、将来、人数の確保が可能な見通しがあれば再開するが、そうでない場合は休園を続けると地域には説明をしている。

委員： 全町内の小学校の児童数が10年で2割の減少となっている。統廃合などのお話があったが、現状で統廃合を行う線引きがあるか。

教育長： 近々に児童数が0人になる可能性も踏まえて、今後小規模校の小学校の教員の配置について変化が出た時に考えている。森町外での小規模校では教頭先生がいない学校もあり、そういった教員の配置の変化がありそうな場合には考えなければならない。

会長： 国の全体の状況としては手引きの考え方を参考にしてほしい。比較的にスタンダードな方向で行おうと考えている。統廃合については文科省だけでなく財務省との都合もある。財務省は一刻も早く統廃合を進めたいだろうが、国家の予算は総額で決まっているので、その都合により予算が削れない時は教員の人数が削減される。しかし、教員の数が減ると学校側は教育の水準を維持できなくなる。現状としては2クラス以上あれば統廃合をしろという話はないだろうと思う。単学級であればクラス替え等の変更がないため危ない。複式学級であれば相当厳しい。森町の現状としては私見ではよく現状維持できていると思う。現在は学校も小規模特認校とか教育課程特例校、小中一貫校など学校の設置状況にも種類が出てきた。維持するよりも今の段階で次の形へ移っていくことを発展的な方向で模索することも個人的には良いと思っている。現状ではこのままを維持することは難しいということ想定した方がいい。

委員： 現在子供が三倉小学校に通っている。保護者等による意見交換会や町長と語る会などで意見を聞いてもらえる場があるのはありがたい。しかし、その場ではなかなか本心を話すことが難しい。もともと地域に長く住んでいる方の意見が強いこともあり、意見が違っていても言い出せない。そういった意見があることも承知して欲しい。

会長： 地域の意見の集約の仕方を含めて考える。各地域でいろいろな意見を持っている人がいる。しかし、率直に自分の意見を言えないというのは、なによりも良くない。意見を言うことで影響が出るため公の場で控えることがある。無記名でアンケートを取るなど、きちんと意見を取っていききたい。

委員： 小規模特認校制度についてはどのようなものか。

会長： 静岡市梅ヶ島小中学校と島田市伊久美小学校などが小規模特認校になっている。人数が少なく、体験活動が非常に盛んにできることなどの小規模であることを生かした教育が受けられる学校が対象になる。小規模特認校になると他地域から登校が可能になる。一部の学校では生徒が数人増えた事例があるが、10人以上増えた事例はほぼない。よほど先進的な試みが出来れば、その可能性がないとも言い切れないので、手段の一つとして考えられる。

委員： 建設されてから経過年数が一番多いものが48年とあるが、統廃合でなく建物の建て替えについては何年毎を目途に行うかなどの予定はあるのか。

事務局： 現状何年に建て替えるなどの具体的な予定はない。老朽化が激しいことや教育環境的に厳しいことが確認できればその時点で考えていく。しかし、財政的な負担も大きい。町が公共施設管理計画を立てており、他の公共施設とも建て替え時期が重なっている。平準化して財政負担が集中しないように順次行っていくことになると思うが、すべての学校をそのまま見直すことは難しい。それらを踏まえ総合的に判断して実行していく。

会長： 一般論だが、校舎に使われているコンクリートは20年間で強度を増していき、その後中性化していく。中に入っている鉄骨が酸性化していくと鉄が錆びていく。そ

れを考えるとだいたい 60 年ぐらいが寿命となる。これを保全、改修すると 70～80 年まで伸ばすことができる。しかし、保全費用等を考えると 50 年ぐらいで建て替えを行うのが一般的。

委員： 地区代表として検討会に参加している。地域住民からの意見集約の具体的な説明がないが、どのように携わっていけば良いか、どのように意見を集約すれば良いか。森町では地域によって声の強い人もいる。意見集約の方法をじっくり検討しないと地域代表の委員として参加したのはいいが、分からないうちに決まってしまうものは良くない。

会長： この会を組織するのにあたって、各地域の意見を聞くためにそれぞれの地域のみなさんに参加していただいているが、地域の意見の代表として来ているわけではない。多様な条件の人に来ていただいて、森町全体にとっての一番良い方向を考えるための一つの提案として参加していただいている。各地域の代表としてはいるが、その地域の意見を集約してもってきてもらうなどは考えていない。むしろ、この検討会ではこういったことを話しているなどを機会があれば地域の人に伝えてもらうなど発信をして欲しい。長期的に言えば地域で支えていく学校にしなければならない。ひとりひとりが地域に対して責任をもつという考えは持つ必要はない。

事務局： 会長が話した内容の通りである。委員は地域の取りまとめ役ではない。小規模校がある地域では意見がいろいろあると思われるので、その際にはこちらから出向いて、地域のみなさんに出ていただいたところで事務局から説明を行ったり、意見を聞いたりすることを考えている。決して各地域の委員に説明や意見集約をしていただくということは考えていない。

会長： 今まで出た意見を合わせて、次回以降議論を続けていきたい。いろいろな意見を出していただきありがたい。

事務局： 教育委員長から、学校のあり方検討会長へ諮問をしていただく。

教育委員長：（諮問書を読み上げる。）

事務局： 次回は7月11日（火）午後1時からの開催。  
開催通知を閉会后みなさまにお配りする。  
以上で第1回森町学校のあり方検討会を閉会とする。

以上